

都市再生整備計画 事後評価シート
甘木地区(第二期)

令和2年12月

福岡県朝倉市

様式2-1 評価結果のまとめ

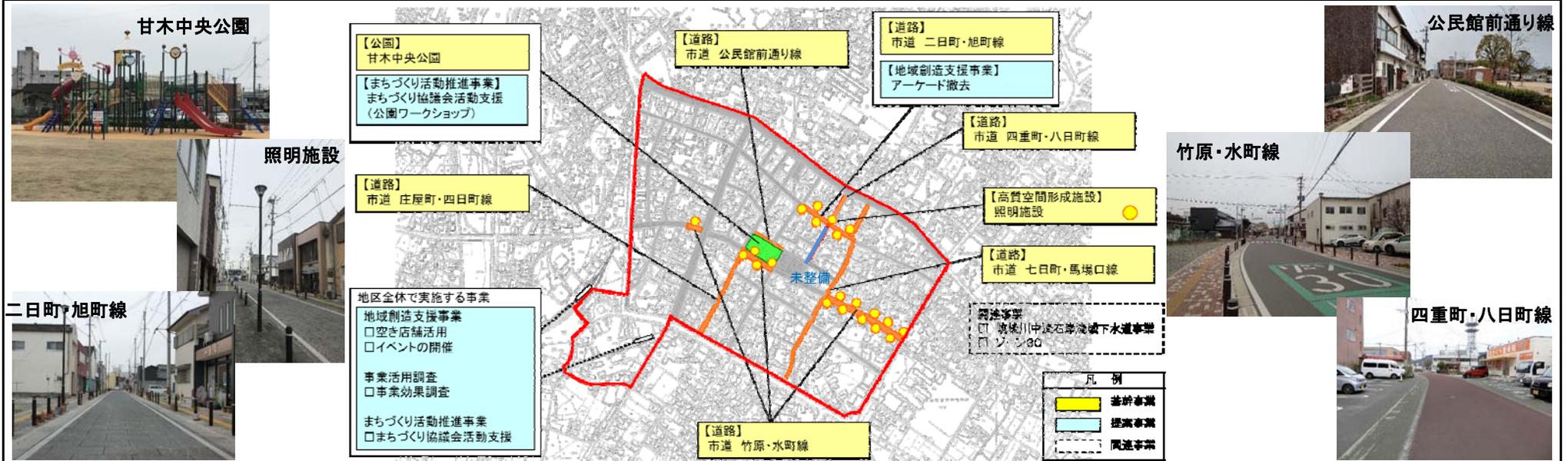
都道府県名	福岡県		市町村名	朝倉市		地区名	甘木地区(第二期)			面積	41ha		
交付期間	平成25年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1,922.6百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(二日町・旭町線、竹原・水町線、庄屋町・四日町線、公民館前通り線、七日町・馬場口線)、公園(甘木中央公園)、高質空間形成施設(照明施設)										
		提案事業	空き店舗の活用支援、アーケードの撤去、イベントの開催、事業効果調査業務委託、まちづくり協議会活動支援										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—		削除/追加の理由			—					
		提案事業	—		—			—					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(四重町・八日町線)	・都市基盤の整備を推進し、地域センターへの回遊性及びアクセス利便性を図るとともに、安全・安心に暮らせる、歩行者ネットワークを整備するため。また、中心市街地の賑わいや交流を創出させる軸の整備を推進し、商業振興及び活性化への相乗効果を図るため追加。			・歩行者交通量の間接的な効果を発現する事業となるため影響なし						
		提案事業	—		—			—					
	交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
変更	平成25年度～平成31年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ	
			単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期	
	指標1	歩行者交通量	人/12時間	360	H24	400	H31	—	261	×	あり なし	●	未定
	指標2	新規出店数	店	9	H24	5	H31	—	0	×	あり なし	●	未定
指標3	地区人口	人	5,307	H24	5,407	H31	—	5,385	△	あり なし	●	未定	

	指標		従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	交通量	台/12時 間	633	H25						・歩行者交通量と同一条件における交通 量(車、バイク、自転車)を事業開始前と比 較した結果、約2倍増加している。個別の 地点では、アーケード撤去した二日町・旭 町線の交通量が増加していることから、 アーケード撤去および道路整備が、まちな かへの回遊性向上につながっている。	
	その他の 数値指標2	空き店舗数	店	12	H24						・空き店舗が減少し、居住としての活用が 最も増加した。まちの賑わい再生に向けた 事業の効果が発現し始めている。空き店 舗利用による今後の波及効果を期待す る。	
	その他の 数値指標3	甘木鉄道甘木駅乗車人 員	人	206,995	H24							・甘木駅乗車人員は、年々増加傾向にあ る。魅力的で安心して暮らせる市街地環境 形成の効果が発現し始めている。
4)定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップに参加した行政職員のコミュニケーション能力が向上した。 ・甘木中央公園の整備により、子供連れの家族の公園利用が増えている。 ・はなみずき通りグレードアップイルミネーション点灯式は、H31年度では約3,000人が参加しており、年々参加人数は増加傾向にある。 											
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた						
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラン21あまぎ協議会」の開催 継続的に、「甘木町まちづくりニュース」を発行し、住民への広報を実施 ・「チャレンジ21」の開催 空き店舗部会、イベント部会、通りづくり部会などにおいて、市民との意見交換・調整 ・まちづくり協議会活動支援 甘木地区コミュニティ協議会、公園ワークショップの実施 			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	<ul style="list-style-type: none"> 「プラン21あまぎ協議会」、「チャレンジ21」について ・今後も、まちづくりを進めて行くための組織として、運営の支援等を継続的に行っていく。 「まちづくり協議会活動支援」について ・公園を通じた交流拠点および防災拠点の形成や維持管理に向けて、引き続き協働による取組みを進める。(継続) ・まちづくりに対する機運に応じて、まちづくり協定の締結や地区計画の実施など、街並み整備の誘導や通り(商店街)の活性化に向けた取組みを支援する。(継続) 			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラン21あまぎ協議会」の開催 全体計画の実施管理、各部会の活動報告や意見の集約・取りまとめを実施 ・「チャレンジ21」の開催 事業内容の検討や見直しなど、協働によるまちづくり実施組織として活動を進める ・まちづくり協議会活動支援の実施 市が実施する竹原・水町線(はなみずき通り)整備にあわせて、住民主体で花壇整備、清掃活動、イベント開催等を実施 商工会議所が主体となった組織で、民間企業との連携による取組みを実施 			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	<ul style="list-style-type: none"> 「プラン21あまぎ協議会」、「チャレンジ21」について ・プラン21あまぎ協議会(チャレンジ21)による市民・事業者主体のまちづくり活動を支援していく。 「まちづくり協議会活動支援」について ・市民主体の活動を支援していく。 ・機運の高まりに応じ、その他通りづくり協議会の連携を図り、中心市街地全体としての賑わいの創出や回遊性の向上に向けた取組みを進める。 ・民間企業との連携による取組みを実施。必要に応じて、協議会運営における支援等を行う。 			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

甘木地区(福岡県朝倉市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 中心市街地を賑わいと交流の拠点として再生し、魅力的で安心に暮らせる市街地環境を創造する 目標1: 交流人口を促進する多様な都市機能の創出により、中心商業地の再生を図る。 目標2: 都市基盤の整備を推進し、安全・安心に暮らせる、快適な市街地環境の創出を図る。 目標3: 人と人との連携・交流による賑わいや活力の創出を図る。	歩行者交通量	単位: 人/12時間	360 H24	400 H31	261 H31
	新規出店数	単位: 店	9 H24	5 H31	0 H31
	地区人口	単位: 人	5,307 H24	5,407 H31	5,385 H31



まちの課題の変化

【商店街としての一体性の確保】通りづくり協議会において策定した「通りづくり協定案」について、まちづくり協定として地元住民と新規居住者との連携を育むことができた。今後も引き続き周知・活用していく必要がある。また、住宅、駐車場としての利用や更地(空き地)の問題は、空き店舗数の減少(12→3)によりさらに深刻化している。沿道の都市基盤の整備後、住宅、駐車場としての利用が多く、市街地(商店街)としての連続性が未だ弱い。新規店舗の誘導が今後も継続して商店街としての一体性を強める活動として必要である。

【中心市街地の魅力向上】フリアス甘木(甘木地域センター)での地域交流や甘木中央公園でのイベント(甘木輝きまつり、はなみずき通りグレードアップイルミネーション点灯式など)を継続して行うことで、地域の魅力向上につながっている。一方で、中心市街地の生鮮食品店については、誘致が進んでいない。商店街についても、地区の集客効果が低いという課題を改善出来ていない。そのため、生活利便施設の誘致を進めつつ、商店街一体として、当地区に訪れたい魅力(「楽しく、くつろぐ、もやいのまち」)を高め、観光客の誘致を継続して進める必要がある。また、中心市街地の回遊性を高めるため、交通結節点(甘木駅等)との連続性を確保することが望まれる。

【安全・快適な歩行者ネットワークの形成】道路の整備に伴い、狭い道路の改善による安全・安心な市街地環境の改善や修景に配慮した整備を進めることで、快適な歩行者空間の形成につながっている。また、歩行者が交流・滞留できる空間や街路灯などの整備に加え、関連事業のゾーン30との連携により、歩行者の安全性に配慮した安全・快適な歩行者ネットワークの形成が進んだ。しかしながら、四重町・八日町線の道路整備が未完成のため、都市空間としての一体性・連続性に課題が残っている。

【組織力の強化】甘木中央公園の整備により、フリアス甘木と連携した、市民が交流できる場(地元まちづくり団体の活動の場)が創出され、市民の交流、それによる賑わいが高まっている。また、甘木中央公園のワークショップを通して、住民のまちづくり意識の向上、住民によるまちづくり意識の醸成に繋がった。「新プラン21計画」の策定においては、住民との協働によるまちづくりは継続して行われているが、一方で組織の形式化、同じ人による運営で、組織の力が弱まっている部分がある。母体となる組織の体制を整えるなど課題は残っている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【中心市街地の賑わい軸の形成】四重町・八日町線の未整備区間の整備を実施し、中心市街地の賑わいや交流を創出させる軸(賑わいの軸)の整備推進をする。加えて、各通りで個性のある通りづくり創出に向けて、住民主体となるまちづくり方針の検討を進める。

【地域の魅力向上】インターネットなどで当該地区の広報を行い、観光客をはじめ、当該地区へ訪れる人の増加を目指す。

【歩行者の安全確保】歩行者ネットワークの整備に合わせ、主要ポイントにおいて、歩く人が交流・滞留できる空間や案内板・照明等を整備する。未整備区間となる通りづくりを推進し、ユニバーサルデザインに配慮し、回遊性に優れた歩行者ネットワークの形成を図る。また、回遊性の高い歩行者ネットワークの形成に合わせて、歩行者の安全性を確保するため、中心市街地内については、警察との連携を図りながら、ゾーン30等の取組みに向けた検討を進める。

【新たな魅力の創出】本地区及び朝倉市に点在する観光資源と連携しながら、中心市街地に訪れた人が回遊できる、更には周辺に訪れた人も立ち寄りたくなる中心市街地の形成に向けた取組みを進める。

【空き地・空き店舗活用】空き店舗活用に向けた取組みを継続的に進め、利便性が高く、賑わいのある中心市街地の魅力を更に高める。さらに、空き店舗の活用支援やイベント開催などのソフト面の強化を図り、新規出店数の継続的な増加を目指す。

【交通結節点(甘木駅)との連携】訪れる人の玄関口(交通結節点)の一つである甘木駅・西日本鉄道甘木駅との連携を図り、中心市街地(商店街)への誘導を図る。回遊性の高い歩行者ネットワークの形成により、甘木駅と「賑わい軸」等の商店街、中心市街地内の歴史資源及び公衆施設等をつなぎ、街歩きマップを作成するなど地区へ訪れる人の増加を目指す。

【「チャレンジ21」「甘木まちなか活性化協議会」の継続的な活動支援】・住民(市民)による主体的なまちづくりを展開するため、それぞれの活動を支援する。既存メンバーに加え、新しいメンバー(地区住民、地区外の住民、若者、その他関係団体(観光))の参加及び連携を進め、各種活動を展開する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路	二日町・旭町線	406.0	L=135m、W=8m	264.0	L=135m、W=8m	事業期間・事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・第三期計画の廃止に伴い、事業期間を延期 ・用地費、補償費の確定による減額	影響なし(目標値の変更なし)	●	
道路	竹原・水町線	915.5	L=332m、W=12m	690.3	L=332m、W=12m	事業期間・事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・第三期計画の廃止に伴い、事業期間を延期 ・用地費、補償費の確定による減額	影響なし(目標値の変更なし)	●	
道路	庄屋町・四日町線	40.0	L=214m、W=6m	35.0	L=214m、W=6m	事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・事業完了に伴う事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	
道路	公民館前通り線	165.0	L=83m、W=6m	152.2	L=83m、W=6m	事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・用地費、補償費の確定による減額	影響なし(目標値の変更なし)	●	
道路	七日町・馬場口線	89.0	L=472m、W=6m	76.5	L=472m、W=6m	事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・事業完了に伴う事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	
道路	四重町・八日町線	—	—	243.3	L=195m、W=6m	事業追加(平成26年7月に計画変更) ・地域センターへの回遊性及びアクセス利便性を図るとともに、安全・安心に暮らせる、歩行者ネットワークを整備するため追加 事業期間・事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・第三期計画の廃止に伴い、事業期間を延期 ・用地費、補償費の確定による減額	影響なし(目標値の変更なし)		● (未整備区間は、用地交渉の関係で完成時期未定)
公園	甘木中央公園	614.0	A=3,500㎡	405.5	A=3,500㎡	事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・用地費、補償費の確定による減額	影響なし(目標値の変更なし)	●	
高質空間形成施設	緑化施設等(照明施設)	20.0	街路灯20基	34.2	街路灯24基	事業期間・事業費・事業規模変更(平成30年1月に計画変更) ・第三期計画の廃止に伴い、事業期間を延期 ・詳細設計後、事業費・事業規模の増加	影響なし(目標値の変更なし)	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	空き店舗の活用支援	2.5		0.0		事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・事業完了に伴う事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	
	アーケードの撤去 (二日町・旭町線)	24.0	L=135m	16.6	L=135m	事業期間・事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・事業完了に伴う事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	
	イベントの開催	0.5		0.0		事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・商店街組織の解散に伴い、事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	
事業活用調査	事業効果調査業務委託	5.0		5.0		事業期間変更(平成30年1月に計画変更) ・第三期計画の廃止に伴い、事業効果に関する調査を延期	影響なし(目標値の変更なし)	●	
まちづくり 活動推進事業	まちづくり協議会活動支援	1.5		0.0		事業費変更(平成30年1月に計画変更) ・商店街組織の解散に伴い、事業費変更	影響なし(目標値の変更なし)	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			事業費 (百万円)	最終変更 計画(百万円)	当初計画	最終変更計画		
筑後川中流右岸流域公共下水道事業		L=8,468m	1,146	1,146	平成16年4月～	平成16年4月～		
ゾーン30		未定	未定	未定	平成24年4月～	平成24年4月～		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし		
指標1	歩行者交通量	人/12時間	・平日の8:00~20:00のアーケード商店街における歩行者交通量をカウンターで計測 ・計測地点の平均値を従前値として設定	-	-	360	H24	400	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定 ●	261	事後評価	×		
指標2	新規店舗数	店	・本通り商店街・一番街商店街において、新規店舗として開業した店舗数を計測	-	-	9	H24	5	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定 ●	0	事後評価	×		
指標3	地区人口	人	・住民基本台帳により都市再生整備計画区域を包含する町の人口を計測	-	-	5,307	H24	5,407	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
										事後評価	確定 ●	5,385.0	事後評価	△		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	歩行者交通量は、増加しなかったものの、交通量(車、バイク、自転車)は大幅に増加している(H25:633台→H31:1267台)。アーケードの撤去後、駐車場が増えたことにより、歩行者の移動経路が変わりつつある。歩行者の招集を目的とし、新規店舗等の誘致やイベント、他路線や駅との連結性を持たせることが今後の目標として考えられる。	歩行者交通量の計測手法は同じものの、H24年の交通量(車、バイク、自転車)は計測方法が異なる為除外した。
指標2	新規店舗数は、増加しなかったものの、空き店舗数は減少している(H24:12店→H31:3店)。用途として、駐車場利用や居住、空き地への変化がみられ、新規店舗の誘導が上手くできなかったことが目標未達成の原因と考えられる。	以前、3つの店舗が利用していた3区分の土地がある。それを1つの店舗が統合して利用している場合、3つの店舗として記載している。本評価においては、店舗移転の為、新規店舗としては記載していない。
指標3	地区人口(都市再生整備計画区域+α)は、目標値の達成には至らなかったものの、事業整備を行った都市再生整備計画区域内の人口は増加している。1年以内の目標値の達成の可能性は大きい。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○:評価値が目標値を上回った場合
 △:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	交通量	台/12時間	指標1:歩行者交通量と同様			633	H25	モニタリング	—	—	・歩行者交通量と同一条件における交通量(車、バイク、自転車)を事業開始前と比較した結果、約2倍増加している。中心市街地の賑わいの回復状況を示す指標と考えられることから、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標2	空き店舗数	店	指標2:新規店舗数と同様			12	H24	モニタリング	—	—	・空き店舗が減少し、居住としての活用が最も増加した。中心市街地の賑わいの回復状況を示す指標と考えられることから、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標3	甘木鉄道甘木駅乗車人員	人	甘木鉄道株式会社が保有する駅乗車数より甘木駅の乗車数を記載			206,995	H24	モニタリング	—	—	・駅乗車人員の増加は、魅力的で安心に暮らせる市街地環境形成の効果が波及したものと考えられることから、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・市民ワークショップに参加した行政職員のコミュニケーション能力が向上した。
- ・甘木中央公園の整備により、子供連れの家族の公園利用が増えている。
- ・はなみずき通りグレードアップイルミネーション点灯式は、H31年度では約3,000人が参加しており、年々参加人数は増加傾向にある。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「プラン21あまぎ協議会」の開催 ※既存組織	予定どおり実施した	● 【実施頻度】各年2回程度(総会、通り返り合同会議他) 【実施時期】H25年～平成31年(継続) 【実施結果】都市再生整備計画事業の実施において、全体計画の実施管理、各 部会の活動報告や意見の集約・取りまとめを行う事で、事業の円滑な推進、持 続的なまちづくりが進んでいる。また、下部組織となる事務局会において、各種 事業実施の手続きや各部会への報告を実施している。	・今後も、まちづくりを進めて行くための組織 として、運営の支援等を継続的に行っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
「チャレンジ21」の開催 ※既存組織	予定どおり実施した	● 【実施頻度】月1回程度 【実施時期】H25年～平成31年(継続) 【実施結果】「プラン21あまぎ協議会」の下部組織。都市再生整備計画事業等 に位置づけた各種事業実施(空き店舗の活用支援、アーケードの撤去、イベン ト開催、通り返り部会等)において市民との意見交換・調整の場として、また事 業内容の検討や見直し等、協働によるまちづくりの実行組織としての役割を達 成している。 なお、当初「チャレンジ21」は、「空き店舗部会」「イベント部会」「通り返り部会」 に分れ協議を進める予定であったが、組織の細分化による活力・効率性の低下 等の問題から、3部会の廃止と一本化した企画委員会を立ち上げ、各種事業を 実施している。	・今後も、まちづくりを進めて行くための組織 として、運営の支援等を継続的に行っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
・まちづくり協議会活動支援の実施	予定どおり実施した	● 【実施頻度】随時(甘木中央公園ワークショップ他) 【実施時期】H25年～平成31年 【実施結果】甘木中央公園の整備にあたって、市民WSを開催し、隣接するフレ アス甘木(甘木地域センター)との連携方針、防災拠点としてのあり方について意 見を聞くなど、住民と行政の協働によるまちづくりを進めている。それにより、公 園整備の目的や方針、また通りの個性的な街並みの創出に向けた取組みが進 んだ。	・公園を通じた交流拠点および防災拠点の形 成や維持管理に向けて、引き続き協働による 取組みを進める。(継続) ・まちづくりに対する機運に応じて、まちづくり 協定の締結や地区計画の実施など、街並み 整備の誘導や通り(商店街)の活性化に向 けた取組みを支援する。(継続)
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
プラン21あまぎ協議会 ※既存組織	予定どおり実施した	●	—	プラン21あまぎ協議会 市・住民・事業者の協働によるまちづくりの最上位の組織 全体計画の実施管理、下部組織の活動報告や意見の集約・取りまとめを実施 「甘木町まちづくりニュース」の発行 実行組織として「チャレンジ21」を下部組織とする。	プラン21あまぎ協議会(チャレンジ21)による市民・事業者主体のまちづくり活動を支援していく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				
チャレンジ21 ※既存組織	予定どおり実施した	●	—	チャレンジ21 「プラン21あまぎ協議会」の下部組織 各種事業内容の検討や見直し、市民意見の反映等、協働によるまちづくりの実行組織としての役割 必要に応じて専門部会(各通りづくり、甘木北公園、イベント開催、空き店舗活用等)を組織	同上
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				
甘木まちなか活性化協議会 ※既存組織	予定どおり実施した	●	「プラン21あまぎ協議会」(都市基盤整備部門)と商工会議所(商業活性化部門)との連携体制の構築	甘木まちなか活性化協議会 朝倉商工会議所が運営主体となり、民間企業等との連携による取り組みを推進 民間事業者(西鉄、バス会社、その他民間企業)との連携を育む組織 「企画本部会議」「バスセンター周辺開発部会」「一番街周辺開発検討会」を開催	民間企業との連携による取り組みを実施 必要に応じて、協議会運営における支援等を行う。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				
通りづくり協議会 ※既存組織	予定どおり実施した	●	—	通りづくり協議会 通りごとの沿道住民からなる通りづくり協議会 通りのあり方、沿道環境のあり方について、ワークショップ等により沿道住民の生活や店舗等の営業活動に即した計画づくりの検討を継続的に進める。	・通りへの関心、まちづくりへの関心を高め、通り等の維持管理や清掃、花壇づくり等への住民の積極的な活動の醸成を図る。 ・通りごとのまちづくりに対する機運に応じて、まちづくり協定の締結や地区計画の実施など、街並み整備の誘導や通り(商店街)の活性化に向けた取組みを支援する。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				
はなみずき通りを育てる会 ※既存組織	予定どおり実施した	●	—	はなみずき通りを育てる会 市が実施する竹原・水町線(はなみずき通り)整備にあわせて、住民主体で花壇整備、清掃活動、イベント開催(はなみずき通りグレードアップイルミネーション点灯式)等を実施	・市民主体の活動を支援していく。 ・機運の高まりに応じ、その他通りづくり協議会の連携を図り、中心市街地全体としての賑わいの創出や回遊性の向上に向けた取組を進める。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
朝倉市政策調整会議	市長、副市長、各部長(総務部、市民環境部、保健福祉部、農林商工部、都市建設部)、教育長、議会事務局長	未定	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他指標の数値目標1	その他指標の数値目標2	その他指標の数値目標3	
指標名		交通量	空き店舗数	甘木鉄道甘木駅乗車人員	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	[道路] 二日町・旭町線	◎	・アーケード撤去および道路整備が、まちなかへの回遊性向上に繋がった。 ・また、道路整備や歩道照明灯の整備が安全・安心して暮らせる環境の整備に繋がっている。 ・事業の効果がまち全体に波及し、交通量が増加した。	◎	・アーケード撤去を境に空き店舗が増加したが、その後は居住利用者が増加した。 ・まちの賑わい再生に向け事業効果が発現し始めている。空き店舗利用による今後の波及効果を期待する。
	[道路] 竹原・水町線	○		○	
	[道路] 庄屋町・四日町線	○		○	
	[道路] 公民館前通り線	○		○	
	[道路] 七日町・馬場口線	○		○	
	[道路] 四重町・八日町線	○		○	
	[公園] 甘木中央公園	○		○	
	[高質空間形成施設] 照明施設	◎		○	
提案事業	[地域創造支援事業] 空き店舗の活用支援	○		◎	・狭い道路の整備や防災拠点となる公園整備、安全に暮らすための照明施設整備等が、魅力ある居住地の形成に繋がった。 ・甘木駅乗車数は、年々増加傾向にある。魅力的で安心して暮らせる市街地環境形成の効果が発現し始めている。
	[地域創造支援事業] アーケードの撤去	◎		◎	
	[地域創造支援事業] イベントの開催	○		○	
	[事業活用調査] 事業効果調査業務委託	—		—	
	[まちづくり活動推進事業] まちづくり協議会活動支援	○		○	
関連事業	[関連事業] 筑後川中流右岸流域公共下水道事業	—		—	
	[関連事業] ゾーン30	○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	交通量	空き店舗数	甘木駅乗車人員
	定期的なイベント開催により、まちに留まるきっかけを作り、まちなか活性化を図る。	空き店舗の活用支援やイベント開催などのソフト面の強化を図り、新規出店数の増加を目指す。	甘木駅利用者が中心市街地と交流拠点を快適に移動できる環境を創出し、まち全体の利便性と回遊性を高める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		歩行者交通量			新規出店数			地区人口		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[道路] 二日町・旭町線	△	・歩行者交通量は、アーケードの撤去後、駐車場が増えたことにより、歩行者の移動経路が変わりつつある。 ・歩行者の招集を目的とし、新規店舗等の誘致やイベント、他路線や駅との連結性を果たせることが必要である。	I	△	・新規店舗数は、増加しなかったが、空き店舗数は減少している(12→3)。空き店舗の活用支援(誘致活動)等を行ったものの、用途として、駐車場利用や居住、空き地への変化がみられ、新規店舗の誘致が上手くいかなかった。	III	△	・目標値には達しなかったが、従前値に比べると、都市再生整備計画区域の人口は増加している。 ・甘木中央公園の整備や都市再生整備計画区域の道路整備により、快適な市街地環境の創出が図られた。	I
	[道路] 竹原・水町線	△			—			△		
	[道路] 庄屋町・四日町線	△			—			△		
	[道路] 公民館前通り線	△			—			△		
	[道路] 七日町・馬場口線	△			—			△		
	[道路] 四重町・八日町線	△			—			△		
	[公園] 甘木中央公園	△			△			△		
	[高質空間形成施設] 照明施設	△			—			—		
提案事業	[地域創造支援事業] 空き店舗の活用支援	×			×			△		
	[地域創造支援事業] アーケードの撤去	—			△					
	[地域創造支援事業] イベントの開催	×			×					
	[事業活用調査] 事業効果調査業務委託	—			—					
	[まちづくり活動推進事業] まちづくり協議会活動支援	△			△					
関連事業	[関連事業] 筑後川中流右岸流域公共下水道事業	—			—			—		
	[関連事業] ゾーン30	△			—			△		

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。
 ※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・歩行者の回遊性を向上させるため、引き続き道路整備など歩行者環境の整備に努める。加えて、フレアス甘木と甘木中央公園との連携により、地域コミュニティ活動を促進させ、歩行者交通の増加を目指す。また、道路や既存の商店街を利用したイベント開催も検討していきたい。</p>	<p>・都市基盤の整備などのハード面の補助に加えて、空き店舗の活用支援やイベント開催などのソフト面の強化を図り、新規出店数の増加を目指す。</p>	<p>・甘木中央公園において防災訓練などの地域住民の連携、交流の活性化を図る行動を促進する。また、インターネットなどで当該地区の広報を行い、観光客をはじめ、当該地区へ訪れる人の増加を目指す。</p>
------------------	--	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
朝倉市政策調整会議	市長、副市長、各部長(総務部、市民環境部、保健福祉部、農林商工部、都市建設部)、教育長、議会事務局長	未定	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<p>商店街としての一体性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 「通りづくり協定案」のまちづくり協定としての役割を發揮することが必要 沿道土地利用については、住宅、駐車場としての利用や更地(空き地)が残る。商店街としての一体性が強めることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 通りづくり協議会において策定した「通りづくり協定案」について、まちづくり協定として地元住民と新規居住者との連携を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、新規出店者・居住者が増加した際に「通りづくり協定案」を引き続き周知・活用していく必要がある。 住宅、駐車場としての利用や更地(空き地)の問題は、空き店舗数の減少(12→3)によりさらに深刻化している。沿道の都市基盤の整備後、住宅、駐車場としての利用が多く、市街地(商店街)としての連続性が未だ弱い。新規店舗の誘導が今後も継続して商店街としての一体性が強める活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業により、都市基盤の整備が進み、まちの魅力は高まりつつある。今後、新規に訪れる人(周辺住民、市民、観光客)を増やしていく必要がある。町の魅力を周知するためのイベントや広報を考え、中心市街地の再生を図る必要がある。
<p>中心市街地の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の誘致の課題や地区内への集客効果が低い 中心市街地の玄関口の一つである甘木鉄道・西日本鉄道甘木駅との連携が弱い 新たに訪れる人、観光客の誘致が進んでいない。そのため、商店街一体として、当地区に訪れたい魅力を高めていくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> フレアス甘木(甘木地域センター)での地域交流や甘木中央公園でのイベント(甘木輝きまつり、はなみずき通りグレードアップイルミネーション点灯式など)を継続して行うことで、地域の魅力向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品店については、誘致が進んでいない。そのため、生活利便施設の誘致を進め、集客性を高める必要がある。 商店街の改善は進んでいるものの、地区の集客効果が低いという課題を改善出来ていない。そのため、商店街一体として、当地区に訪れたい魅力(「楽しく、くつろぐ、もやいのまち」)を高め、観光客の誘致を継続して進める必要がある。 中心市街地の回遊性を高めるため、交通結節点(甘木駅等)との連続性を確保することが望まれる。 	
<p>安全・快適な歩行者ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区全体として未整備区間が残るなど、都市空間としての一体性や連続性に課題が残る。 各通りの車の交通量が増え、歩行者の安全性に対する問題が生じる恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備に伴い、狭い道路の改善による安全・安心な市街地環境の改善や修景に配慮した整備を進めることで、快適な歩行者空間の形成につながっている。 歩行者が交流・滞留できる空間や街路灯などの整備に加え、関連事業のゾーン30との連携により、歩行者の安全性に配慮した安全・快適な歩行者ネットワークの形成が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 九重町・八日町線の道路整備が未 completion ため、都市空間としての一体性・連続性に課題が残っている。 	
<p>組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織活動の形式化、同じ人による運営で、組織力が弱まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 甘木中央公園の整備により、フレアス甘木と連携した、市民が交流できる場(地元まちづくり団体の活動の場)が創出され、市民の交流、それによる賑わいが高まっている。また、甘木中央公園のワークショップを通して、住民のまちづくり意識の向上、住民によるまちづくり意識の醸成に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「新プラン21計画」の策定において、住民との協働によるまちづくりは継続して行われているが、一方で組織の形式化、同じ人による運営で、組織の力が弱まっている部分がある。母体となる組織の体制を整える必要がある。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
<p>A欄 効果を持続させるため に行う方策</p>	<p>中心市街地の賑わい軸の形成</p>	<p>・四重町・八日町線の未整備区間の整備を実施し、中心市街地の賑わいや交流を創出させる軸(賑わいの軸)の整備推進をする。 ・各通りで個性のある通りづくり創出に向けて、住民主体となるまちづくり方針の検討を進める。</p>	<p>●四重町・八日町線整備 ●まちづくり協定、地区計画等の検討</p>
	<p>地域の魅力向上</p>	<p>・インターネットなどで当該地区の広報を行い、観光客をはじめ、当該地区へ訪れる人の増加を目指す。</p>	<p>●甘木中央公園整備 ●イベントの開催 ●住民主体のまちづくり活動支援 ●観光資源の発掘・整備</p>
	<p>歩行者の安全確保</p>	<p>・歩行者ネットワークの整備に合わせ、主要ポイントにおいて、歩く人が交流・滞留できる空間や案内板・照明等を整備する。 ・未整備区間となる通りづくりを推進し、ユニバーサルデザインに配慮し、回遊性に優れた歩行者ネットワークの形成を図る。 ・回遊性の高い歩行者ネットワークの形成に合わせて、歩行者の安全性を確保するため、中心市街地内については、警察との連携を図りながら、ゾーン30等の取組みに向けた検討を進める。</p>	<p>●二日町・旭町線整備 ●竹原・水町線整備 ●庄屋町・四日町線 ●公民館前通り線 ●七日町・馬場口線 ●四重町・八日町線整備 ●ゾーン30の検討</p>

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	新たな魅力の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区及び朝倉市に点在する観光資源と連携しながら、中心市街地に訪れた人が回遊できる、更には周辺に訪れた人も立ち寄りたくなる中心市街地の形成に向けた取組みを進める。 ・多様な都市機能(商業業務機能、医療、福祉、住宅等)の誘致を進める。加えて、個性ある通りづくりの創出と店舗、新たな業種の誘致を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの開催 ●まちづくり活動支援 ●まちづくり協定、地区計画等の検討 ●観光資源の発掘・整備
	空き地・空き店舗活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗活用に向けた取組みを継続的にいき、利便性が高く、賑わいのある中心市街地の魅力を更に高める。 ・空き店舗の活用支援やイベント開催などのソフト面の強化を図り、新規出店数の継続的な増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●空き店舗活用 ●まちなか居住支援事業 ●まちづくり協定、地区計画等の検討
	交通結節点(甘木駅)との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・訪れる人の玄関口(交通結節点)の一つである甘木鉄道・西日本鉄道甘木駅との連携を図り、中心市街地(商店街)への誘導を図る。 ・回遊性の高い歩行者ネットワークの形成により、甘木駅と「賑わい軸」等の商店街、中心市街地内の歴史資源及び公共施設等を結びつけ、街歩きマップを作成するなど地区へ訪れる人の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まち歩きマップの検討 ●まちづくり協定、地区計画等の検討 ●甘木駅の利便性向上の検討
	「チャレンジ21」「甘木まちなか活性化協議会」の継続的な活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・住民(市民)による主体的なまちづくりを展開するため、それぞれの活動を支援する。 ・既存メンバーに加え、新しいメンバー(地区住民、地区外の住民、若者、その他関係団体(観光))の参加及び連携を進め、各種活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの開催(外との連携) ●「チャレンジ21」「甘木まちなか活性化協議会」活動支援

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定 ●	見込み ○		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	歩行者交通量	人/12時間	360	H24	400	H31	確定 ●	261	×	あり	○	未定	—		
							見込み ○			なし					
指標2	新規出店数	店	9	H24	5	H31	確定 ●	0	×	あり	○	未定	—		
							見込み ○			なし					
指標3	地区人口	人	5,307	H24	5,407	H31	確定 ●	5,385	△	あり	○	未定	—		
							見込み ○			なし					
その他の数値指標1	交通量	台/12時間	633	H25	/		確定 ●	1,267							
その他の数値指標2	空き店舗数	店	12	H24	/		確定 ●	3							
							見込み ○								
その他の数値指標3	甘木鉄道甘木駅乗車人員	人	206,995	H24	/		確定 ●	254,429							
							見込み ○								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・各指標について、継続的に計測(取りまとめ)を行っていたため、達成状況の把握や事業効果を常時確認することができた。	・毎年、指標データを計測することで、改善状況の把握や見込値の推計が安易となる。
	うまく いかなかった点	・「地区人口」については、対象地区が都市再生整備計画区域内外の両方を含むため、効果発現が確認しにくかった。 ・平成29年7月に起こった九州北部豪雨が、各指標の評価値に少なからず影響を与えたと考えられる。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標と事業の整合性は図られた。	・都市再生整備計画策定の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	・平成29年7月に起こった九州北部豪雨災害対応により、第二期事業に遅れが生じた。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・「プラン21あまぎ協議会」及び「チャレンジ21」を中心とした住民主体のまちづくりが継続的に展開されたため、地域住民への情報発信、市と市民との協働によるまちづくり、住民主体のまちづくり活動の展開が図られた。 ・「甘木まちなか活性化協議会」の継続的な活動より、市民、民間、行政の協働によるまちづくりの展開が図られた。 ・「通りづくり協議会」の設立により、通りへの関心、まちづくりへの関心を高め、通り等の維持管理や清掃、花壇づくり等への住民の積極的な活動の醸成が図られた。	・住民参加により事業内容を検討することは、円滑かつ効果的な事業実施に有効である。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	・都市再生整備計画の目標達成に向けた円滑な事業推進を図るためには、庁内の連携を図る組織の形成も重要である。
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・第二期事業をもって新プラン21計画の事業完了とし、第三期事業は廃止で検討している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年11月1日 ～令和2年11月20日	令和2年11月1日 ～令和2年11月20日	担当課への郵便、電話、ファックス、電子メール 閲覧窓口への直接提出	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報や市のホームページ及び市窓口等で原案を公表している旨を掲載	「広報あさくら令和2年11月1日号」	令和2年11月1日 ～令和2年11月20日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市計画課、朝倉支所市民窓口係、杷木支所市民窓口係等での原案閲覧	令和2年11月1日 ～令和2年11月20日	令和2年11月1日 ～令和2年11月20日		

住民の意見	なし			
-------	----	--	--	--

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	志賀 勉(九州大学 人間環境学研究院 都市・建築学部門 計画環境系)※委員長	COVID-19対策として書面開催 令和2年11月9日(日) ～令和2年11月22日(月)	都市計画課	朝倉市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	朝倉商工会議所 会頭 朝倉警察署 署長 朝倉県土木整備事務所 所長 男女共同参画審議会 代表				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし。
	成果の評価	・成果の評価について妥当であることが確認された。 ・その他指標2「空き店舗数」について、新規店舗の増加は果たせていないが、居住用等への活用が進んだことで、空き店舗が減少し、通りの沈滞化は避けられている。また、既存店舗では改装・改築を行って個々の魅力を高める動きが見られ、今後の賑わい回復に繋がるのが期待されとの意見があった。 ・その他指標3「甘木駅乗車数」について、市内外の利用者識別ができると良いとの意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程の評価について妥当であることが確認された。 ・事業実施過程では住民への広報、意見交換が行われ、公園づくりや通りづくりに活かされている。また、協議会組織の運営・活動支援により、市民主体のまちづくりの基盤形成と独自の取り組みが進みつつあるとの意見があった。 ・今後、若い方の評価を貰うのはどうかという意見があった。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理について妥当であることが確認された。 ・今後、甘木駅の乗降客のまちなかでの動きを捉え、波及効果の分析を深める必要があるとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし。
	その他	・今回の整備地区の中の「中央通り」については、自転車の往来が多数あるにもかかわらず、歩道の整備がない状態で、甘木小学校の児童等が通学路として利用しており、交通弱者が関わる交通事故の発生が危惧される。今後も上記中央通りのみならず、道路における自動車と交通弱者との通行空間の分離を推進し交通事故抑止を図る必要がある。また、犯罪抑止の視点から、街灯の増設、防犯カメラの設置促進、地域コミュニティ連携の活性化を図り、更なる安心・安全な市街地形成を計画的に推進していく必要があるとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて妥当であることが確認された。 ・地域内部の若い方や子育て世代にも、意見や行動を出してもらい協議会づくりを行う。それが活気とアイデア、実行力を生むとの意見があった。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成について妥当であることが確認された。 ・課題の整理を踏まえて今後の方策がまとめられていると思う。今後の推進にあたっては、協議会組織等と連携してアクションプランを練り、官民協働のまちづくり活動が持続・活性化する道筋をつくっていくことが望まれるとの意見があった。 ・定期的に地域の新鮮野菜・果物による「市＝market」にすることで、近郊からも来客があり、賑いの創出が出来るのではとの意見があった。また、近隣の高校との連携による賑わい創出の意見もあった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・一部未整備路線はあるが、これまでの整備事業は円滑に進んでおり、これによって、回遊性の向上につながる通りづくりや拠点形成がなされ、市民のまちづくりの取り組みも育まれつつある。今後、玄関口である鉄道駅との連携整備が構想されており、これまでの事業実績を活かし相乗効果を図る事業計画・運営が望まれるとの意見があった。 ・人口減少が重要課題である朝倉市、そして甘木地区において、いかに賑わいをとり戻すか、活性化するか、その事によって人口減少に歯止めをかけるかが、課題であるので市と商工業者で連携して今後につなげたいとの意見があった。 ・今回の評価結果に基づき、早急に実行策を議論してまとめていくべきではないかとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について妥当であることが確認された。
その他	・ゾーンの美観、とくに清潔感を保ち、子育て世代が気持ちよく訪れ、小中学生などの若者世代が集える場になると良い。	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、都市再生整備計画評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—(該当なし)	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---